

教職支援センター活動報告③

一面接指導(幼稚園・保育所・こども園)を中心として一

教職支援センター特任教授 阿部 直美

1. 相談利用状況について

1) 月別相談利用数

表 1 月別相談利用数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
実数 (人)	12	4	13	16	9	9	14	4	3	84
のべ数 (人)	16	5	19	32	17	14	20	4	3	<u>130</u>

2020年4月から12月までの相談利用総数はのべ130人であった。この数字については、今年度特任教授3名と教職カウンセラーによる新たな体制となった教職支援センターにおいて、昨年度との比較は難しい。しかし以前より、幼稚園教職課程を取得する学生数に比べて、教職支援センターを利用する学生数が少ない状況が示唆されていたため、2019年度より教職支援センターを学生が訪れる機会が増えるよう以下の取り組みを行ってきた。

①実習指導室(U校舎内)への常駐

幼稚園教職課程を取得する学生はその多くが児童学科の学生であり、U校舎での受講が多く、遠く離れた教職支援センターを気軽に訪れることが難しいと思われた。また幼稚園担当者(筆者)が授業等で学生と顔を合わせることも少ないため、学生認知を促すため、2019年9月から1月まで週2日9:00~16:30実習指導室に常駐し、学生の相談対応を行ない、教職支援センターへの認識が高まるよう取り組んだ。

②実習指導室(U校舎)の充実

学生が実習指導室を訪れる目的やニーズが高まることが重要と考え、児童学科のご理解のもと、実習指導室の充実に努めた。実習での保育の選択肢が増えるよう、季節の遊びや



図1 遊び紹介コーナー



図2 実習指導室

子どもに人気の楽しい遊び(ゲーム遊び・鬼ごっこ・身近なものをを使った遊び・作って遊ぼう)等を配慮のポイントと共に紹介したり、おすすめ絵本を紹介するコーナーを設置した。

また就職関連図書コーナーを設け、採用試験過去問題集の他、保育者とは、保育とは、子どもとは、を考える機会となる図書を紹介し、学生が気軽に手に取って、学生同士で自由に話し合い、学び合える環境を整えた。

③学生への告知

児童学科、他学科の学生に向けてチラシを作成し、掲示板等を活用したり、また授業内で配布したりして積極的に告知を行った。

これら①③の取り組みを通して一定数の学生への認知は進んだと思われるが、2020年度はコロナの影響により対面での取り組みが激減したため、残念ながら②実習指導室の充実に伴う学生のコーナー活用には至らなかった。

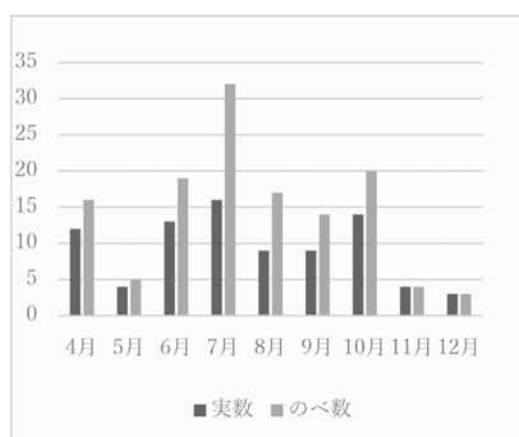


図3 月別相談利用数

月別相談件数(表1)を詳細にみると、7月の相談利用数がのべ32人と一番多く、これは採用試験実施自治体が多い時期であると考えられる。また5月はコロナの影響による人数の減少がみられ、学生にとって貴重な時期に空白が続いた。一人でも多くの学生が教職支援センターを活用し、自らの教職への思いを実現できるよう、学生のニーズや変わりゆく状況の変化に柔軟性を持った対応を行っていくことが重要である。

2) 学年別相談利用数

表 2 学年別相談利用数

	1 回 生	2 回 生	3 回 生	4 回 生	5 回 生 以上	合 計
実数 (人)	0	1	19	19	0	39
のべ数 (人)	0	1	23	106	0	130

表 3 月別・学年別相談利用数 (クロス集計)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合 計
実 数	12	4	13	16	9	9	14	4	3	84
2 回 生	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
3 回 生	1	0	2	4	0	2	8	3	3	23
4 回 生	11	4	11	11	9	7	6	1	0	60
のべ数	16	5	19	32	17	14	20	4	3	130
2 回 生	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
3 回 生	1	0	2	4	0	2	8	3	3	23
4 回 生	15	5	17	27	17	12	12	1	0	106

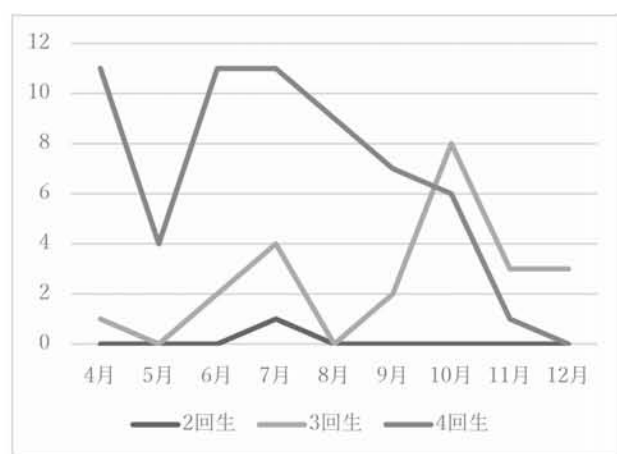


図 4 月別・学年別相談利用数(実数)

学年別相談利用数(表 2)は、4 回生が大半占めている。学生はとても熱心に取り組んでおり、試験対策のため何度もセンターを訪れる学生の熱意に応える指導の充実が望まれる。

月別・学年別相談利用数(表 3)をみると、教員採用試験に向けての学生の取り組みの動向が伺える。4 月から 8 月は 4 回生が利用数の殆どを占めているが、(7 月実習に伴う 3 回生の相談あり) 9 月になると 3 回生の利用数が増え始め、10

月・11 月・12 月へと 4 回生を上回る利用数へと転じる。つまりこの時期に 3 回生が教員採用試験に向けてセンターを利用する等動き出す時期であることが伺える。

3 回生の相談内容は「進路相談」と「実習関係」で、2020 年 4 月から 12 月においては、進路相談 15 件、実習関係 8 件となっている。

進路相談の主な内容としては、

- ・ 公立と私立どちらにしようか迷っている
- ・ 幼稚園教諭、保育士どちらにしようか迷っている
- ・ どの自治体を受けるか迷っている
- ・ 公立採用試験に向けての勉強方法や出題傾向、お勧めの参考書
- ・ 先輩の合格状況
- ・ 3 回生の今すべきこと 等である。

個別に面談を実施し、疑問を解決すべく進路相談を行っているが、これらの相談内容は教職支援センターを訪問していない学生も知りたい情報であるとも考えられる。9 月からの 3 回生の動向も踏まえて、教職支援センターとして 3 回生にむけて発信していくことが重要であり、その方法についても検討していきたい。幼稚園教員採用試験においては、9 月以降の試験実施自治体も多く、4 回生と共に 3 回生のニーズにも対応できるよう年間を通して緩みない支援体制の必要性が認識できた。

3) 所属別相談利用数

表 4 所属別相談利用数

	国文	英文	史学	教育 学専 攻	心理 学専 攻	音楽 教育 学専 攻	児童 学科	食物 栄養 学科	生活 造形 学科	生活 福祉 学科*	現代 社会 学科	法学 部法 学科	合計
実 数 (人)	0	0	0	11	0	1	27	0	0	0	0	0	39
の べ 数 (人)	0	0	0	27	0	2	101	0	0	0	0	0	130

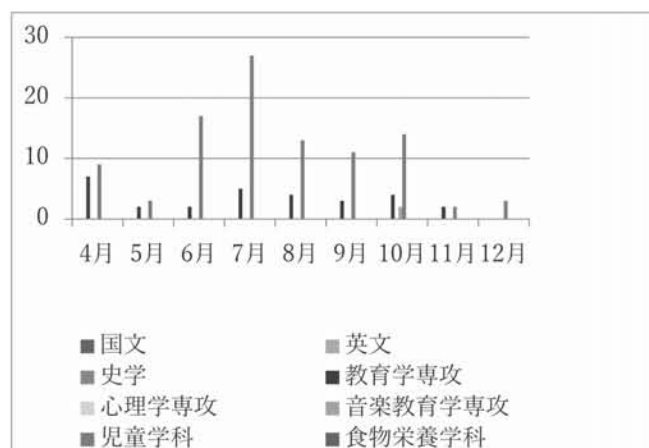


図 5 月別所属別相談利用数

所属別相談利用数(表 4)をみると、児童学科の学生の相談が実数 27 人と多かった。

教育学専攻の学生も実数 11 人おり、教育学専攻における幼稚園教職課程を履修する学生数を考慮すると、利用数が多いことがわかる。教育学専攻の学生は、小学校教員免許も取得予定であるが、幼稚園(保育所・こども園を含む)

就職への確固たる意志を有していること

が印象的であった。教育実習や介護等体験

等を通して小学校教育等色々な現場を経験することで、自らの進路について考える機会が多いことも影響しているように感じられた。

2. 相談内容について

1) 相談内容別利用数

表 5 相談内容別利用数

	個人面接指導	集団面接指導	文章添削指導	進路相談	実習関係	合計
のべ数(人)	84	10	7	18	11	130

相談内容別に学生の利用数をみると(表 5)個人面接指導が一番多く 84 人であった。これはコロナの影響により、教員採用試験において集団面接や集団討議を中止し、個人面接を何度も実施する自治体が多かったこと、zoom を活用した面接指導となったことも理由として考えられる。zoom を利用した面接練習は初めこそ違和感があったものの、少人数での活用ということもあり、スムーズに導入できた。

実習関係の相談については、音楽教育学専攻の学生 1 名の相談があった。実習日誌の書き方、指導計画の作成に対する質問内容で、幼稚園実習を控えており、幼稚園への就職が決定しているにもかかわらず、これらの指導を受ける機会が無かったとのことであった。このような少人数の学生のニーズに対しても、アンテナを立てて教職支援センターとして出来ることを確認すると共に、学生に発信していくことの重要性に気づかされた。

2) 面接指導について

学生の利用数が一番多かった個人面接指導において、学生にみられた傾向と課題、指導について考える。

傾向と課題 Episode①

学生は幼稚園教育要領等に書かれている文章をとにかく並べて話そうとする。いわゆる教科書に載っている文章は間違っていないので安心だと考えるのか、書かれている文章をそのまま話す。しかし間違っているとはいなくても、自らの思いは全く話せておらず、相手の心になにも届いていないことに気づいていない。大切なことは、自らの思い、考えを話すことであるということに気づくことが課題となる。

<指導について思うこと>

今話していることが、自らが本当に考えていること、思っていることなのかを問いかけ、その背景と一緒に考える。学生自らの経験を思い出し、その時どのように感じ、どのようなことを学んだのか、丁寧に振り返る。そして自ら考え、自らの言葉で表現することができるよう、教科書ではない大きな安心感に繋がることに気づかせていく。学生の一つひとつの経験を紐解き、自らの思いを確かなものにしていく指導が大切である。

傾向と課題 Episode②

「こんなこと面接で言ってもいいんですか」学生の言葉である。特技と聞かれて、言っても良いか悩んだフレーズは、「私の特技はご飯を美味しくいっぱい食べることです」である。

<指導について思うこと>

面接指導を通して、学生には是非自らの素敵な個性を発見して欲しい。といっても、自分ではそれが個性と気づかなかったり、良さと思えなかつたりする学生も多い。学生が自らの個性を自覚し、そのことが自信に繋がり、本人の表情にも、しぐさにも、目の輝きにも生き生きと表現されるよう、指導者には学生の個性を探す力、伸ばす力が求められていると感じている。

面接指導では多くの学生が緊張して臨む。緊張感と闘いながら臨む学生の姿に感動しつつ、冷静な指導を心がける日々であった。学生が、愛情を注いでくれた先生、苦しいとき助けてくれた先生、知らないことを教えてくれた先生、一緒に笑った先生、色々な先生と出会う経験こそが将来の力になると信じ、学生と真摯に向き合いたい。

3. 今後の課題

現在教職に向けての取り組みについては、学生の自主性に任されているところが大きい。勿論学生は「教師になる」という意思を持ち、主体的に取り組むことが大切であるが、周りの人はどうしているのか、自分は遅れていないか等不安を感じている学生も少なくない。学生が入学してからの4年間、教師になるためにどのような経験が必要で、どのようなことを身につけておくべきか等、自らが進むべき道を1回生から4回生まで目に見える形で示していくことが重要である。教職課程ハンドブックを見直すとともに、教職支援センターが学生の道標となるよう、取り組みについても検討を重ねていきたい。

今年度教職支援センターの特任教授が各分野揃い、教職カウンセラーも新しい顔ぶれとなり、新しい体制がスタートした。またコロナ流行による対面自粛や入校禁止等、これまでの日常にも変化があった。今までの概念にとらわれず、学生のニーズを捉えた支援事業、支援内容の検討、様々なツールを活用した発信力等考えていきたい。

また中学校・小学校と比べて、幼稚園(保育所・こども園を含む)を目指す学生への対策講座等支援体制が少ない状況である。新たな支援体制や補足支援等について検討していきたい。そしてなにより、一人でも多くの学生が夢を叶えることができるよう、この活動報告を踏まえた課題を再確認し、自らの指導力の向上に努めていきたい。